平成２５年度研究成果報告書《平成 25 年度教育課程研究指定校事業》

都道府県・指定都市番号	３１	都道府県・指定都市名	鳥取県
ふりがな **学校名**（生徒数）	とっとりけんりつとっとりしょうぎょうこうとうがっこう 鳥取県立鳥取商業高等学校（５７３名）		

（本研究に係る問い合わせ先）
所在地：鳥取県鳥取市湖山町北２丁目４０１番地
電話番号：０８５７－２８－０１５６
学校のホームページの URL：http://cmsweb2.torikyo.ed.jp/torisyo-h/

【研究成果のポイント】

○研究課題番号：４高等学校
○研究対象教科等：商業
○研究のキーワード：言語活動，コミュニケーション能力，課題解決能力，ケーススタディ，知識構成型ジグソー法
○研究成果のポイント：経済社会やビジネスの動向に理解を深め，自ら論理立てて思考・判断・表現し，主体的に学ぶ姿勢と課題解決能力の向上を図る。

【研究の目的，研究内容】

（１）研究主題

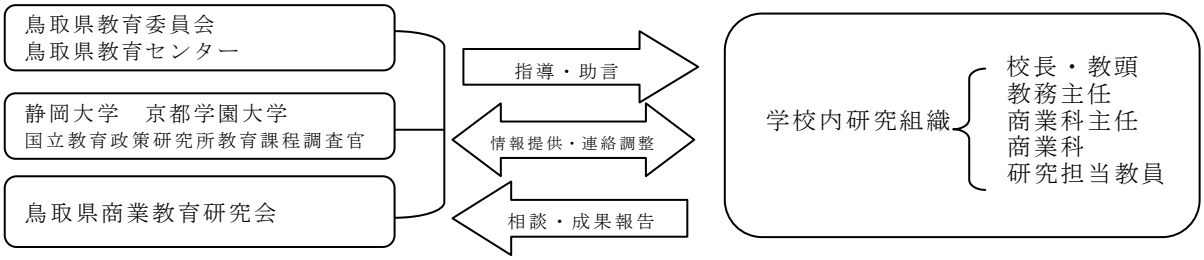
経済社会やビジネスの動向について理解を深め，主体的に学ぶ力とビジネスの実践力の育成を目的とするケーススタディ及び知識構成型ジグソー法に関する指導方法の研究

（２）研究主題設定の理由

本校においては，本校教育の目指す人物像を「地域の産業経済界をリードし，活躍する人」とし，ビジネス教育・資格取得・部活動を柱として教育の充実を図っている。

しかし，地域経済界をリードするための実践力・応用力の育成については必ずしも十分とは言えないことから，これらの力につながる，「経済社会の動向に理解を深めようとする姿勢及び自ら物事を論理立て，表現する力」を身に付けさせることが必要であると考え，研究主題を設定した。

（３）研究体制



（４）１年間の主な取組の経過

平成25年度	７月　とっとリーダー育成プロジェクト（県事業）における授業実践とその検証 ８月　鳥取県商業教育研究大会における研究発表 ９月　県外高校教員との授業実践交流①（本校） １０月　中国五県商業教育研究大会における研究発表 県外先進校視察（香川県立坂出商業高等学校） ケース教材作成に関わる地元企業の訪問（１１月も実施） １１月　県外高校教員との授業実践交流②（広島県立尾道商業高等学校） １１～１２月　大学教授による研究授業の視察・指導助言及び職員研修会 １２月　教育課程研究指定校事業研究授業実施（担当教科調査官指導訪問） １月　研究成果の検証とまとめ　指導計画・評価規準の見直し ２月　国立教育政策研究所教育課程研究センター関係指定事業研究協議会で報告

（５）具体的な研究内容・方法，研究を進める上での工夫点等

「知識構成型ジグソー法」及び「ケーススタディ」を活用した言語活動の充実を図るため，グループでの学習活動を積極的に取り入れ，思考力・判断力・表現力を身に

付けることが出来るよう，以下の活動に主眼を置き研究を行った。

①ビジネスに関する資料などに基づいて，自分の考えをまとめる活動（思考力・判断力の育成）

グループでの学習活動を行う前に，学習内容の資料などを読み取り，いくつかの質問に答える形で，その読み取った資料についての考えをまとめる力の育成を図った。その際に，知識構成型ジグソー法では，授業の最後に期待する結論の要素に近づく資料・設問の作成を心がけ，ケーススタディでは，さまざまな考えが出てくる設問を準備した。

②自分の考えを他者に伝え，課題解決に向けて意見交流や考察する活動（表現力の育成）

グループでの学習活動では，自分の考えを伝えることで，適切に表現する力を高めるとともに，他者の考えを導いたり，整理しながら課題解決に向けてのディスカッションや考察・探究が進むようにした。実施にあたり，生徒同士で役割を分担し，積極的に意見交換ができるように配慮した。

また，自分と異なる考えを比較することで，より自分の考えを深め，論理的な思考力の向上を図るようにした。さらに，これらのグループ活動を通し，コミュニケーション能力の向上を図るとともに，仲間と協調・協力する姿勢を養うように工夫した。

【研究成果とその意義等】

（１）研究成果

＜成果＞

・知識構成型ジグソー法及びケーススタディの特徴は，「資料を読み取る」「記録・まとめる」「説明する」「聞く」「討論する」といった言語活動が含まれていることであり，これらを行うことで，思考力・判断力・表現力やコミュニケーション能力，問題解決能力の向上を図ることができた。また，新しい授業形態を取り入れることにより，生徒は従来の講義中心型の授業に比べ，授業への興味・関心がより高まり，意欲的に取り組む等の変容がみられた。

・授業において，個々の生徒に役割が与えられるため，主体的・積極的に学習に参加する環境になり，言語活動が活性化された。

・ケーススタディでは，生徒が実際に企業を訪問し，インタビューに基づいてケース教材を作成することで，経済社会やビジネスの動向について理解を深めることができた。

＜課題＞

・知識構成型ジグソー法を活用した授業を行うに当たって，発問方法を精選するとともに，その授業実践の最後に求める答えの要素は何なのかを予め十分に検討しなければならない。知識構成型ジグソー法とケーススタディでは，発問が漠然としていると生徒は考えにくくなり，授業が進まない場合もあるので，しっかりとした事前の検討が必要である。

（２）研究成果の意義等

・県外高校と言語活動の充実を目指した授業実践交流を行うことで，学習方法（知識構成型ジグソー法）への関心の高まり，広がりの兆しが見えた。

・商業の他科目や他教科でも言語活動を取り入れた授業が増え，授業改善への取組が活発になった。

・言語活動を取り入れることにより，生徒は主体的にグループ活動に取り組むことができた。発表の際には，どのようにすれば相手に分かりやすく伝えることができるか等，聞く側の立場を配慮した取組が見られた。自分の考えをまとめ，表現する過程を通じ，思考力・判断力・表現力やコミュニケーション能力，問題解決能力の向上を図ることができた。

（３）指定期間終了後の取組

校内においては引き続き研究を進め，教室内での学びに専門性を持たせ，地域経済やビジネスの動向について考察させるためのケーススタディ及び知識構成型ジグソー法の教材づくりを推進する。また，これらの手法を取り入れた授業について，授業研究会を開催し，校外へ向けて情報発信を行う。